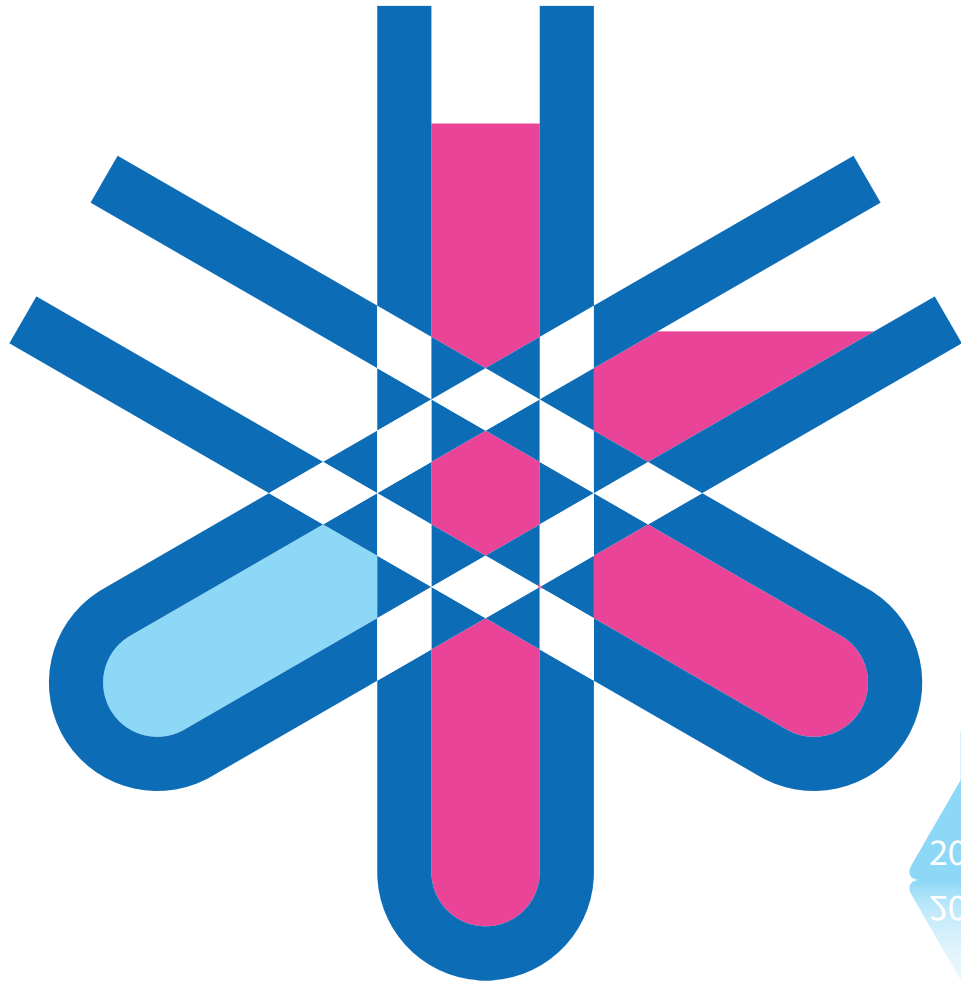


# 横查情報月報



2020  
5050  
10月  
10日

横浜市衛生研究所

# 令和2年10月号 目次

## 【検査結果】

医動物・種類同定検査結果(令和2年4月～9月) .....	1
食品アレルギー検査結果(令和2年8月) .....	3
農産物の残留農薬検査結果(令和2年8月) .....	5

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 9月 .....	7
----------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	11
---------------------	----

## 医動物・種類同定検査結果(令和2年4月～9月)



医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和2年4月から9月の6ヶ月間の種類同定検査報告件数は5件で内訳は、昆虫類3件(コウチュウ目1件、ハチ目1件、ハエ目1件)、その他の節足動物2件(ザトウムシ目1件、クモ目1件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

同定結果	写真 (状態、体色、大きさ)	相談内容・ 発生状況等 (相談月)	生態・その他
ムナビロヒメマキ ムシ (コウチュウ目)		マットレスを保管している部屋のフローリング上と隣室の畳に小さな虫が多数みられる。(9月)	成虫、幼虫ともカビを食べる。製薬工場や食品工場等の倉庫内のパレットやカビの生えた壁などにみられる。畳に発生することもあり、家屋害虫としては本科の中では最も普通にみられる種である。
成虫、赤褐色、1.2mm			
ニホンミツバチ (ハチ目)		空き家のトイレ下部の外壁隙間から多数の虫が出入りしている。(9月)	巣は数年単位で維持され、分封によりコロニーは増える。分封は4～5月にみられる。営巣場所は樹洞、岩の間、墓石の中、天井裏、軒下、木の幹、床下など広範囲にわたる。
成虫、黒色、12mm			
ホシチョウバエ (ハエ目)		給食の配膳室の床上に1～2mmの虫の死骸が大量にみられた。(8月)	浄化槽、汚泥の溜まった下水溝など有機物の多い水域に広く発生する。幼虫は日中も活動するが、深夜に最も活発に活動する。成虫も夜間に活発に活動する。
成虫、灰白色、1.3mm			
ゴホントゲザトウムシ (ザトウムシ目)		自宅の庭でクモのような虫を捕獲した。(6月)	ザトウムシ目は主に落葉、落枝中や倒木下、樹幹、草本上などに生息する。林床や地表でみつかるともある。食性は広く、昆虫やミズ、陸貝などを捕食するほか、植物質を食べることもある。
成虫、黒色、10mm			

同定結果	写真 (状態、体色、大きさ)	相談内容・ 発生状況等 (相談月)	生態・その他
セアカゴケグモ (クモ目)	 <p data-bbox="400 577 740 651">雌成虫、黒色、背面及び腹面に赤い斑紋あり、10mm</p>  <p data-bbox="539 896 603 929">卵囊</p>	横浜港シンボルタワー敷地内でクモ及び卵囊を採取した。 (9月)	体色は黒く、背面中央部に赤い縦長の斑紋、腹面にゴケグモ類特有(砂時計型)の赤い斑紋がみられる。 攻撃性はないが、直接手で触れると咬まれることがあるので注意が必要である。咬まれると激しい痛みを感じた後に腫れ、まれに全身症状(痛み、発汗、発熱など)が現れることがある。重症化することは少ない。

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

# 食品アレルギー検査結果(令和2年8月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーのある人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品や特定原材料除去食の検査を行っています。

令和2年8月に、健康福祉局食品専門監視班がインターネットで購入した食品36検体について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

## 1 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品12検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (スープ、ホワイトシチュー等)	5	0
菓子類 (クッキー、乾パン等)	7	0

## 2 乳の検査

原材料に乳を使用していないとされる食品12検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (カレー、ハンバーグ等)	6	0
菓子類 (クッキー、乾パン等)	6	0

## 3 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品12検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

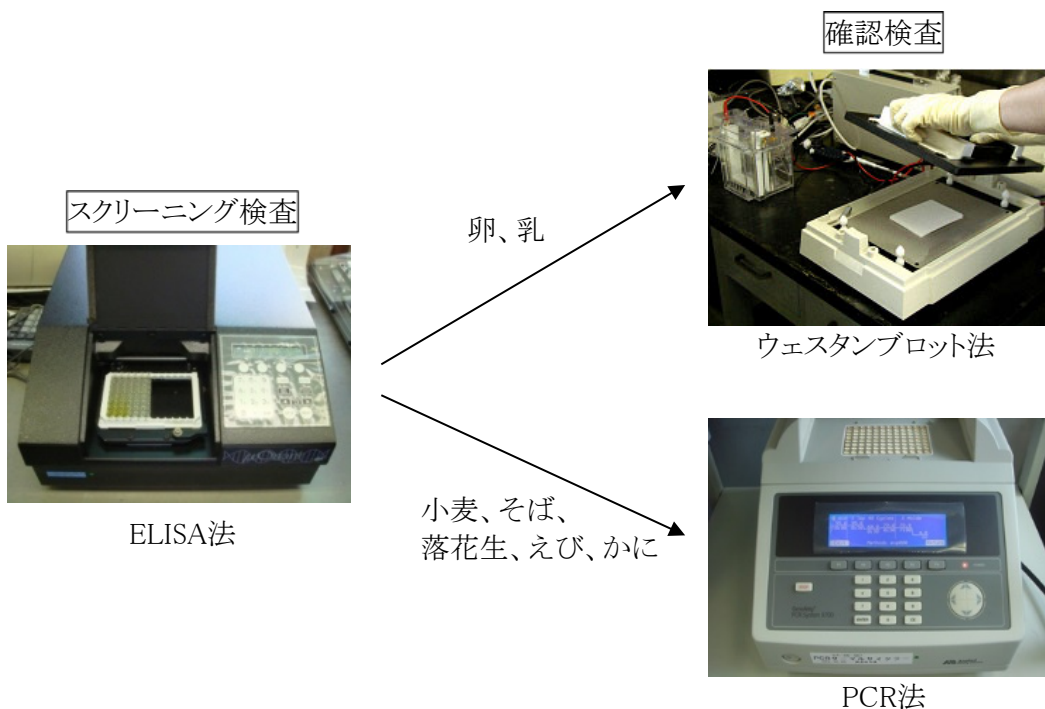
検体名	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (カレー、ハンバーグ等)	7	0
菓子類 (クッキー、乾パン等)	5	0

## 「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査ではすべて陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。「卵、乳」については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、「小麦、そば、落花生、えび、かに」については、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

## 農産物の残留農薬検査結果(令和2年8月)

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和2年8月に健康福祉局食品専門監視班が収去した農産物の検査結果を報告します。

### ◆ 市内産農産物

8月に収去された、日本なし及びぶどう(各5検体)の計10検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。日本なし5検体及びぶどう5検体から延べ28項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出頻度が高かった農薬の概要については、6ページの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果 (令和2年8月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)				
日本なし	横浜市	5	5	クレソキシムメチル	0.04	5				
				*	クロルフェナピル	0.01	1			
					フルバリネート	0.01	0.7			
					クレソキシムメチル	0.03	5			
				*	クロルフェナピル	0.03	1			
					テブコナゾール	0.37	5			
					フェンピロキシメート	0.06	0.5			
					フェンプロパトリン	0.19	5			
					フルバリネート	0.01	0.7			
					クレソキシムメチル	0.02	5			
				*	クロルフェナピル	0.01	1			
					ブプロフェジン	0.03	6			
					クロルフェナピル	0.01	1			
				ぶどう	横浜市	5	5	ボスカリド	0.13	5
								ボスカリド	0.10	3
								イミダクロプリド	0.02	3
								*	ファモキサドン	0.17
ペルメトリン	0.28	8								
*	アセタミプリド	0.02	5							
	クレソキシムメチル	0.02	15							
	ファモキサドン	0.01	2							
	メタラキシル及びメフェノキサム	0.02	1							
	アズキシストロビン	0.03	10							
*	イミダクロプリド	0.01	3							
	テブコナゾール	0.05	10							
	ファモキサドン	0.08	2							
	プロチオホス	0.01	2.0							
				ペルメトリン	0.07	8				

\* 中括弧 ( ) は同一検体からの検出

表 2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)	農薬名	検出限界 (ppm)
BHC ( $\alpha$ , $\beta$ , $\gamma$ 及び $\delta$ の和)	0.005	シペルメトリン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
DDT (DDE,DDD,DDTの和)	0.005	ジメエート	0.01	フサライド	0.01
EPN	0.01	シラフルオフェン	0.01	ブタフェナシル	0.01
アクリナトリン	0.01	ダイアジノン	0.01	ブプロフェジン	0.01
アセタミプリド	0.01	ダイムロン	0.01	フルジオキシニル	0.01
アゾキシストロビン	0.01	チアクロプリド	0.01	フルシトリネート	0.01
アラクロール	0.01	チアメキサム	0.01	フルトラニル	0.01
アルドリン及びディルドリン	0.005	テトラコナゾール	0.01	フルバリネート	0.01
イソキサチオン	0.01	テブコナゾール	0.01	フルフェノクスロン	0.01
イミダクロプリド	0.01	テブフェノジド	0.01	フルリドン	0.01
インドキサカルブ	0.01	テブフェンピラド	0.01	プロシミドン	0.01
エトキサゾール	0.01	テフルトリン	0.01	プロチオホス	0.01
エトフェンプロックス	0.01	トリアゾホス	0.01	プロパホス	0.01
エポキシコナゾール	0.01	トリフルラリン	0.01	プロピコナゾール	0.01
エンドスルファン ( $\alpha$ 及び $\beta$ の和)	0.005	トリフロキシストロビン	0.01	プロピザミド	0.01
エンドリン	0.005	トルクロホスメチル	0.01	プロモプロピレート	0.01
オキサミル	0.01	ノバルロン	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
カルバリル	0.01	パラチオン	0.01	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005
クミルロン	0.01	パラチオンメチル	0.01	ペルメトリン	0.01
クレソキシムメチル	0.01	ビフェントリン	0.01	ペンコナゾール	0.01
クロマフェノジド	0.01	ピリダベン	0.01	ペンシクロン	0.01
クロルピリホス	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	ベンゾフェナップ	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	ピリミカーブ	0.01	ベンダイオカルブ	0.01
クロルフェナピル	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	ボスカリド	0.01
クロルプロファム	0.01	ピリミホスメチル	0.01	マラチオン	0.01
クロロクスロン	0.01	ファモキサドン	0.01	ミクロブタニル	0.01
シアノフェンホス	0.01	フィプロニル	0.002	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01
シアノホス	0.01	フェナリモル	0.01	メチダチオン	0.01
ジエトフェンカルブ	0.01	フェニトロチオン	0.01	メキシフェノジド	0.01
ジコホール	0.01	フェノブカルブ	0.01	メトラクロール	0.01
シハロトリン	0.01	フェンクロルホス	0.01	リニューロン	0.01
ジフェノコナゾール	0.01	フェンスルホチオン	0.01	リンデン ( $\gamma$ -BHC)	0.005
シフルトリン	0.01	フェントエート	0.01	ルフェヌロン	0.01
シフルフェナミド	0.01	フェンバレレート	0.01	レナシル	0.01
シプロコナゾール	0.01	フェンピロキシメート	0.01		

DDTは $p,p'$ -DDE、 $p,p'$ -DDD、 $o,p'$ -DDT及び $p,p'$ -DDTの和

【農薬解説】

○クレソキシムメチル

『ストロビー』等の商品名で販売されている殺菌剤です。特にうどんこ病、黒星病、べと病などに対して効果があります。令和元年度及び平成30年度に検査を行った日本なしからも検出されています。

○クロルフェナピル

『コテツ』等の商品名で販売されている殺虫・殺ダニ剤です。野菜、茶、果樹等の主要害虫に対して殺虫効果があります。平成30年度に検査を行った日本なしからも検出されています。

○ファモキサドン

『ホライズン』等の商品名で販売されている殺菌剤です。令和元年度に検査を行ったぶどうからも検出されています。

※参考文献:一般社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック 2016 年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】



# 横浜市感染症発生動向調査報告 9月

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈9月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	8件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	3件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	-	-

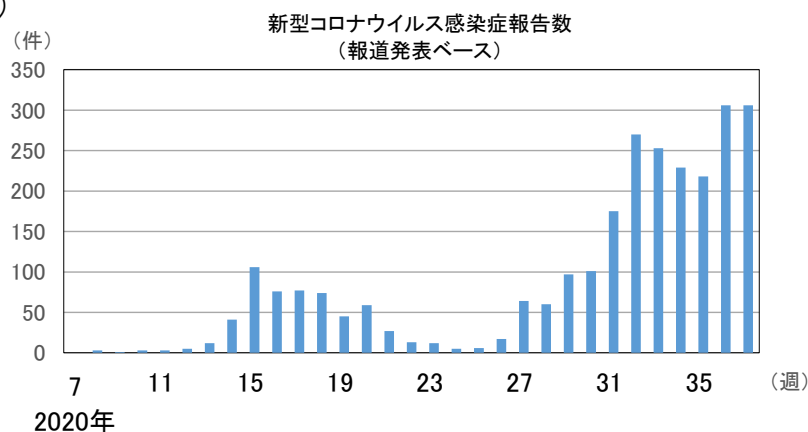
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O91が1件(無症状病原体保有者)、O26が1件、O111が1件(無症状病原体保有者)、O157が3件、O血清群不明が2件(うち無症状病原体保有者が1件)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型1件、ポンティアック熱型2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 5 ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件ありました。針等の鋭利なものの刺入による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者3件、その他1件の報告がありました。いずれも性的接触(同性間3件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。感染経路等不明です。
- 10 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件の報告がありました。性別は男性1件、女性2件で、いずれも性的接触による感染が推定されています。
- 11 百日咳: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回)ありました。感染経路等不明です。

### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

今回の調査期間(8月24日から9月13日)に横浜市から報道発表のありました症例は830件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

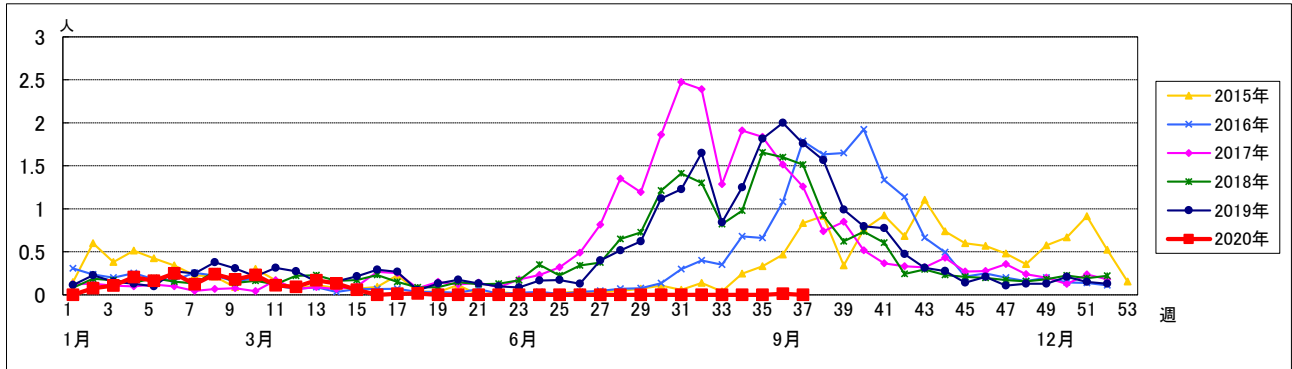
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>



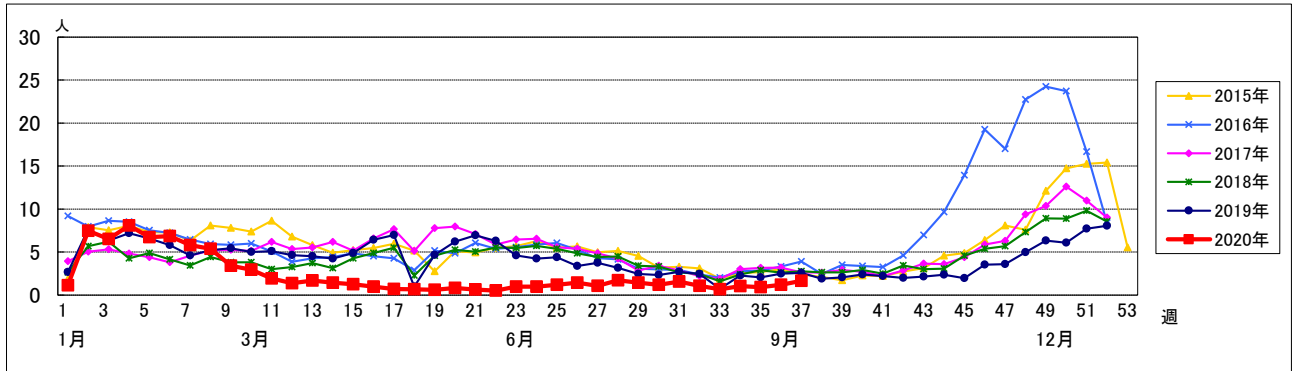
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第35週	8月24日～8月30日
第36週	8月31日～9月6日
第37週	9月7日～9月13日

1 RSウイルス感染症: 昨年はこの時期に多くの報告がみられていましたが、今年第37週で0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第37週は1.63となっています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:1件	女性:3件	淋菌感染症	男性:24件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

## ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

## 〈ウイルス検査〉

8月24日から9月20日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点24件、内科定点2件、基幹定点0件、眼科定点2件で、定点外医療機関からは2件でした。

コクサッキーA4型遺伝子3件及びライノウイルス遺伝子9件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果9月期(2020年第35週～第38週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
コクサッキーA4型	3	
ライノ	6	3
合計	9	3

上段:ウイルス分離数

下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

9月期(2020年第35週～第38週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、エロモナス1件、マイロイデス1件、侵襲性肺炎球菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌9件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌6件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、侵襲性肺炎球菌1件、腸球菌1件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ3件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第35週～第38週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Escherichia coli</i> (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)	
	エロモナス	1	<i>Aeromonas veronii</i> (1)	
	マイロイデス	1	<i>Myroides odoratimimus</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	9	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (7)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Pantoea</i> sp. (1)	
保健所	腸管出血性大腸菌	6	O157 : H7 VT2 (1)、OUT : H- VT2 (1) O26 : H11 VT1 (1)、O91 : HUT VT1 (1) O103 : H2 VT1 (1)、O111 : H- VT1 VT2 (1)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (4)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)	
	腸球菌	1	<i>Enterococcus thailandicus</i> (1)	
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ	3	不検出 (3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和2年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

令和2年9月の総アクセス数は、347,900件でした。前月に比べ約13%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター<sup>\*1</sup>85.8%、保健情報8.0%、検査情報月報1.6%、食品衛生1.1%、生活環境衛生1.0%、薬事0.9%でした。

<sup>\*1</sup> 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

9月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「リシン毒素について」、3位は、「大麻(マリファナ)について」でした。9位には、「フルーツジュース(果汁)と下痢について」が入っています。

表1 令和2年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	194,742
2	リシン毒素について	25,420
3	大麻(マリファナ)について	9,078
4	ぎょう虫(蟻虫)症について	6,716
5	トキソプラズマ症について	4,235
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,299
7	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,133
8	EBウイルスと伝染性単核症について	2,989
9	フルーツジュース(果汁)と下痢について	2,965
10	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	2,928

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「リシン毒素について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ra/ricin1.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年9月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和2年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
MRワクチンについて	1
大麻(マリファナ)について	1

## 2 追加・更新記事

令和2年9月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 令和2年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月1日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
	熱中症情報(2020年9月1日)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第7回)	更新
9月7日	熱中症情報(2020年9月7日)	掲載
9月9日	平成29年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)の 健診データ分析結果	掲載
9月11日	熱中症情報(2020年9月11日)	掲載
	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第8回)	更新
9月18日	熱中症情報(2020年9月18日)	掲載
9月28日	熱中症情報(2020年9月28日)	掲載
	感染症に気をつけよう(10月号)	掲載
9月29日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第9回)	更新

【 感染症・疫学情報課 】